

滋賀の将来医療を展望した成人病センター機能再構築について

資 - 病院1
成人病センター
電話 582-8065

【予算額 95,588千円】

成人病センターを取り巻く環境が変化しています

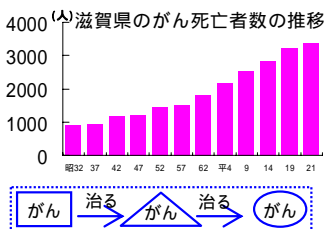
将来医療を展望した機能再構築が必要です

機能再構築に向け、改築二期工事に着手します

外部環境

がん患者の増加

- がん死亡者数男女1位
- 新しい治療法発展
- 治る時代。一生に何度も



脳、心血管障害の増加

- 発症時の対処が重要
- 急がれる予防的治療

急増する高齢者に対する医療の特殊性

- 身体的負担の少ない治療体制が必要
- 疾病構造の変化に即した診療体制が必要

不足する医療資源

- 医師をはじめとする不足と地域格差
- 医療への患者さんの意識と理解が必要

内部環境

がん診療の充実

- 都道府県がん診療連携拠点病院に指定(H21年度~)
- 病理診断、画像診断など人的、機械的整備を推進
- 移植再生医療、無菌治療を行う病棟が必要
- がんは入院でなく外来治療が可能

急性期医療の強化

- 救急外来 血管造影 手術室等へのフローが重要

診療体制の充実・強化

- 地域連携を進める体制整備が必要
- 医療専門職が自立した役割を担う

成人病センターに求められるもの

県立病院として、高度医療に向けた機能強化

高度専門医療の強化

- 新しい治療等の推進
- 高度医療を支える人材育成
- 臨床研究の充実

地域・在宅医療へのシフト

- 外来化学療法 of 充実
- 地域連携機能の強化
- 病・病・診の連携

がん拠点としての機能充実

- 相談支援機能の強化
- 情報発信機能の強化

経営健全化

- 効率的な病院経営

患者さん中心の医療

病理・画像遠隔診断体制

- バーチャルスライドを用いた全県型病理・画像診断体制の構築

医療専門職の育成

- 地域医療を支える人材の育成

ITを活用した全県型医療

- 医療情報ネットワーク

健康情報提供

- 県民の自立を支援する信頼度の高い健康情報の提供

県立病院として、全県を対象とした取り組み

成人病センターの近未来の姿

外来機能

- 外来化学療法 of 拡大・充実
- 地域連携機能の強化
- チーム医療 外来の設置 (服薬・検査・栄養)
- 予防治療体制の整備
- わかりやすい動線の確保
- 健康情報発信機能の強化

合理的な診療の流れ

入院機能

- 療養環境の充実
- 療養指導の強化
- 新しい治療体制の整備 (移植細胞治療)
- 動きやすい病棟構成 (安全・安心)
- 急性期に対応した病床整備
- 個室率のアップ

- 当初計画の機能・規模を見直して、中断している改築二期工事に着手します。
- H23年度は基本設計等に取り組みます。

	当初計画	新計画(案)
第2期延床面積	26,000㎡	約20,400㎡
全体病床数	610床 (新々棟320床)	540床 (新々棟256床)
事業費見込み	約165億円	約80~90億円

【スケジュール案】H23~24年度 設計業務
H25~27年度 建物建設
H26~28年度 開院予定